



アヤメの里の防災リーダーを目指して

～雨にも負けず雪にも負けず～

大館市立第二中学校 教諭 村井洋右

1 はじめに

内閣府及び防災教育チャレンジプラン実行委員会の助成を受けた研究2年目、一つ一つの点として行われてきた活動を「防災教育」という観点で線へとつなぎ合わせ、昨年度までの教師主導から、企画・運営を生徒に挑戦させる形で様々な活動に取り組んできた。

2 今年度の取組

- (1) 地域防災組織の立ち上げと地域防災活動
- (2) 避難所としての学校
- (3) エコ産業都市と防災

3 今年度の重点

「地域との連携、および地域に根ざした防災活動の在り方」に関わる実践

(1) 地域防災組織の立ち上げ

- ① 大館消防署員を招き、防災集会を開催した。防災活動に関するアドバイスをいただき自分たちの活動の重要性を再認識することができた。
- ② 地域の方々とともに、町内会ごとの話し合いをもち、要望や地域行事についての詳細をうかがいながら、今年度の取組について計画を立てた。(写真A)

(2) 小学生との交流

7月と12月の2回実施した。7月には、夏バージョンの防災マップを、12月には積雪時の防災マップを加えたものを用いて、危険箇所やAEDの設置場所について、小学生を前に説明した。その後、小学生とともに集団下校した。(写真B)

(3) AEDを含む救命救急講習

消防署から救急救命士を迎え、人形による胸部圧迫とAED操作を体験し、緊急時の対応について学び、実践力を高めた。生徒、教職員ほか、保護者・地域住民も多数参加しての講習会となった

月	実践活動
4	・第1回防災活動検討委員会 ・町内班会
5	・そなエリア見学(修学旅行) ・エコシステム花岡訪問(職場見学) ・第1回避難訓練
6	・地域防災組織の立ち上げ
7	・小学校との交流Ⅰ(3年)
8	・AEDを含む救急救命講習 ・地域防災活動Ⅰ ・避難所モデルプランコンテスト ・着衣水泳学習(保健体育)
9	・地域防災活動Ⅱ,Ⅲ ・防災マップバージョンアップ
10	・学校祭での防災展 ・炊き出し訓練
12	・小学生との交流Ⅱ(2年)
1	・防災マップDVDの制作 ・第2回避難訓練,防災講演会 ・防災グッズの製作(技術・家庭)
2	・放射能に関する学習(理科)



↑写真A

写真B ↓



(4) 地域防災活動

- ① 夏休み中に、町内ごとに防災活動を行った。地域住民も参加して、町内の防災看板を作ったり、消火器の使用方法についての講習を受けたりした。(写真C, D)
- ② 9月中旬には、地域行事(祭典)に参加し、地域住民と交流を深めた。
- ③ 9月下旬には、3回目の地域防災活動を行い、各町内の危険箇所の様子を確認したり、地域住民とともに清掃活動を行ったりした。

(5) 炊き出し訓練

自衛隊の協力を得て、炊き出し訓練を行った。地域防災に貢献する意義や、地域の防災リーダーとして、災害時に貢献できる実践的な実習を行うことができた。(写真E)



写真C



写真D



写真E

4 成果

- ・生徒中心の防災活動検討委員会を立ち上げたことで、防災に関する意識が高まったとともに、諸活動における主体性が育まれた。
- ・様々な取組の結果、防災に関する知識や災害時における実践力が身に付いてきた。
- ・地域に根ざした防災活動を展開したことで、地域住民の防災意識を向上させることができた。また、これまで培った地域連携をさらに深めることができ、地域と学校の一体感が醸成された。
- ・生徒に「地域の防災リーダー」としての自覚が芽生え、また、将来にわたって、地域の一人として尽力するといった心情も育むことができた。
- ・防災教育を通して、防災に関する知識や実践力を身に付けることができた以上に、地域連携やふるさとに対する愛着をもてたことに大きな意義があった。
- ・年間計画を策定し、見通しをもった取り組みができた。教育課程内でできること、教育課程外で行うことを明示したことで計画的により実践的に活動することができたと思われる。

5 課題

- ① 想定外の災害への対応とマニュアルづくり
- ② 保護者との連携
- ③ 防災教育の教育課程への位置付け
- ④ 危機意識を継続した今後の取組

6 おわりに

2年間の防災教育チャレンジプランの実践を継承し、次年度以降は次のような取組を考えている。

- ① 活動内容の精選と継続的な取組
- ② 実践内容の集約と実践成果の還元